

平成十七年九月一日「防災の日」午前九時から午後〇時四十五分まで、大館市内の六会場を実施場所として大館市東部を中心に強い直下型地震が発生、最大震度六強を記録し、県内の消防本部、消防団等九十機関、十二、〇〇〇人が参加、家屋の倒壊、道路の損壊、中高層ビルの亀裂、劇物・油の漏れ、建物火災、河川の増水により堤防に亀裂が生じ住民の避難誘導、負傷者の救

# 秋田県総合防災訓練 大館市で開催される

平成十七年度



題 字  
初代会長 松野 盛 吉  
定 価 1部 5円  
(購読料は年会費に含む)  
発行人  
〒010-0001  
秋田市中通4丁目3-23  
秋 田 県 消 防 協 会  
会 長 中 泉 松 之 助  
電 話 018-832-3791  
FAX 018-834-2706

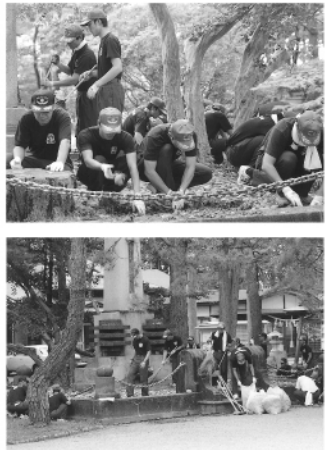


出、救護、被害者に対する食糧の供給、消火活動、電力、通信、水道、ガスのライフラインの応急復旧の訓練が行われた。四十三回目となる今回は、県警のヘリコプターが被災地の映像を対策本部や各現場に伝えたほか、樹海ドーム前の道路の上ではタンクローリーとバスの衝突で劇物が漏出したことを想定し、化学防護服を着用した部隊が負傷者の救護にあたった。樹海ドーム内では、ポランテイルによる受け入れ訓練、婦人消防団員による学校施設初期消火訓練、街区火災防

御訓練が行われた。



印 刷  
〒010-0951  
秋田市山王7丁目5-29  
株式会社 松原印刷社  
電話 018-862-8760



平成十七年八月十九日、秋田市千秋公園本丸に昭和三年に建立された「殉職組員招魂碑」は七十七年の歳月のため、碑の痛みも目に付くようになってきたが、毎年、消防学校の情操教育の一環として学生による碑および敷地の清掃作業を行っていた。感謝している。

9月9日には、この清掃された招魂碑の前で、殉職消防職(団)員四四名の慰霊祭が行われた。



平成十七年度全国統一防火標語  
『あなたです  
火のあるくらしの  
見はり役』

トーハツ消防ポンプ  
モリタ自動車ポンプ 総合防災設備センター  
消防被服全般  
秋 田 県 代 理 店

## 株式会社 高 義 商 会

(営業種目) トーハツ小型動力ポンプ  
モリタ自動車ポンプ  
ジェットホース  
消防被服全般  
火災報知器各種  
消火器各種

〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32 Ⅸ(0183)(42)2125  
〒019-0504 十文字町本町 Ⅸ(0182)(42)0032  
〒012-0844 湯沢市市町 Ⅸ(0183)(73)2588

## 株式会社タカギ

秋田県横手市寿町1番28号  
TEL (0182)(32)3880

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ | キンバイホース  
トーハツポンプ | シパウラポンプ  
各種消防機械器具 | 各種消火器  
消防設備保守点検

本 荘 由 利 支 部



大 仙 市 仙 北 郡 支 部



秋 田 市 支 部



消防 半天・帯・団旗  
優勝旗・ゼッケン  
手拭・タオル・のれん  
旗幕類名入染物専門

寺 田 染 工 場

横手市清川町 ☎32-0416

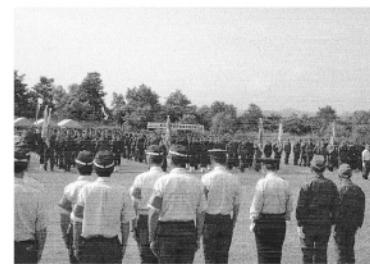
# 各支部で行われた 消防訓練等の大会

## 小型ポンプ操法とポンプ車操法の優勝は県大会に出場

支部名	規程訓練の部	小型ポンプの部	ポンプ車の部	総合の部
湯沢市雄勝郡支部	湯沢市消防団 稲川支団	東成瀬村消防 団第2分団	稲川支団	湯沢市消防団 稲川支団
横手市平鹿郡支部	横手市消防団 第2分団第1部	十文字町消防 団第3分団第1部	十文字町消防 団第3分団自動車部	十文字町消防 団第3分団自 動車部
大仙市仙北郡支部	大仙市消防団 協和支団	美里町消防団 第10分団		
本荘由利支部 (支部大会未実施)	仁賀保地区消 防団第7分団 第3部	仁賀保地区消 防団第7分団	由利本荘市消 防団島海支団 第1分団	
秋田市支部		秋田市消防団 河辺第三分団	秋田市消防団 城東分団	
男鹿南秋支部		大瀧村消防団 第1分団	大瀧村消防団 第3分団	
能代市山本郡支部	琴丘町消防団 第3小隊	二ツ井町消防 団第6分団	琴丘町消防団 第1分団	琴丘町消防団
大館北秋田支部	大館市比内消 防団	大館市比内消 防団第6分団	大館市比内消 防団第1分団	大館市 比内消防団
鹿角支部	鹿角市消防団 尾去沢第分団	小坂町消防団 第4分団	小坂町消防団 第4分団	小坂町消防団

県大会に向けて、各支部で行われた訓練大会(五支部)、競技大会(二支部)、操法大会(二支部)と大会の名称は異なるが、規程訓練51分団、小型ポンプ105分団、小型ポンプ42分団が参加して行われた。その各支部の各訓練等の一位または総合一位はつぎのとおりである。

横手市平鹿郡支部



岩手県矢巾町消防団視察

湯沢雄勝支部



大 館 北 秋 田 支 部



男 鹿 南 秋 支 部



鹿 角 支 部



能 代 市 山 本 郡 支 部



第五十八回秋田県消防大会において  
第二回消防団員による意見発表会開催

平成十七年七月八日の県消防大会において、平成十七年度から初めて開催した九支部の消防団員代表による意見発表会では、開催地の大仙市仙北支部代表田沢湖町消防団長大石正文氏が一番手で登壇した発表の内容「若手団員に期待」はつぎのとおりです。

大仙市仙北支部  
田沢湖町消防団長 大石正文



今回、消防大会のメインであり「意見発表出場者」ということで、先般の理事会の席上、「今回新しく就任した団長に！」ということもあってか、私に白羽の矢が立てられました。私、この四月に田沢湖町消防団の団長に任命されました大石正文でございます。

このような大きな大会で、しかもステージの上で、大先輩の皆様方を前に致しまして、意見を申し上げるなど、あがらないわけがございません。

しかし私が消防団に入団してから今日まで、その時々感じたことを思い出しながら、そして今の若い団員の考えと照らし合わせてながら述べて見たいと思います。私が初めて消防団にお世話になったのは昭和四十五年の田沢湖町消防団機構改革の時でした。十数個分団から七個分団に再編された節目の年であります。

この時、私たち新人団員をご指導下さった、当時の幹部を始めとする先輩の皆様方は、格式の高い優れた方々でした。

中には、かつて兵隊を経験された方もいらして、号令のかけ方など、規律訓練等は特に力が入ったものです。かつて消防団員だった一般の方々からもご指導をいただき、いろいろなお話を聴くことができました。

「下積み」と言えば語弊がありますが、研修を重ね、規律、ポンプ操法・水防演習など、各種大会に繰り返し出場しました。また樺細工場の大火災を始めとする数々の火災、駒ヶ岳の噴火の際にも出動しましたし、その他田沢湖町ならではの行事「全国植樹祭」や「冬季国体」の運営も補佐して参りました。タケノコやキノコ等の山菜の豊富な我が町は、そのシーズンになると町内はもとより県内外からも沢山の入山があるため遭難事故も多く、何回となく出動しましたが、その度に幹部諸先輩方に導いていただきました。結果、だんだん活動に自信が湧いてきたのもこの頃のように思います。

若手団員に期待 II

近頃は、かつて私がお世話になっていた分団や、あるいは町の幹部が指導を担当している他の分団の、若い団員たちと親しい話し合いを持つ機会がございますが、彼らから異口同音に出てくる言葉は、主に「消防団の上下関係について」です。

こういえば「どんな心配ごとか？」と思われる節もあるかもしれませんが、どうしてどうして、今の若い団員は「きちっと筋の通った指導と命令、号令にはついて行く」と申します。ただし、「上司が口先だけでなく、ちゃんと裏付けがある場合」と付け加えます。まさにその通りだと思いません。

そんな彼らも「ボランティア活動をひたすら終えた後の達成感は何にも増して嬉しい」と杯を傾けながら、頼もしい言葉を語ってくれます。

現代は自由きままに生きていける世の中ではありませんが、消防での上下関係の有益性というのが非常に大切に感じられ、責任を持つた団員の行動に感銘させられます。

こうした若手団員の成長から、最近甚で起きている若者の犯罪や事件等とは凡そ関係のない、立派な若者が育ってくれていると自負しています。こうした成果が消防団の活動から生まれてきていることについて、強い誇りを感じています。今は制度的にも社会的にも難しいかもしれませんが、若者が成長していく過程に、たとえ一時でも、消防に代表されるボランティア活動を体験できる機会があってもよいのではないのでしょうか。

北海道・東北地区消防協会  
実務担当者研修会終える

平成十七年七月四日、五日青森市の「ラ・プラス青い森」で日消主催の北海道・東北地区消防協会実務担当者研修会が開催され、一道七県から実務関係者が参加した。日本消防協会柴垣会館支配人のあいさつがあり、一つ目として、各県の消防の実情を把握するため、昨年から分団長に集まってもらい会議を開いているが、分団長さんは市町村合併に伴って団員減になってしまふのが心配している。また、団員加入の呼びかけを行っているが経営者の理解不足をどのように理解させたらよいか何か方法がないか。二つ目は、五月二十日には消防団員の減少を抑えるため、消防応援団の旗揚げを行ったところ小泉総理大臣、麻生総務大臣が激励に駆け付けてくれた。水前寺清子から百九十九万人宣言を行っていた。徳田会長は日本防災会議のメンバーであり、三ヶ月に一回会議が開かれているので、その都度、消防団の必要性を説いている。三つ目は、日本消防協会でもホームページ <http://www.nishoot.jp/> を開始したので、開いてほしい。

地域の防災、災害対策に貢献!

消防  
ポンプ自動車  
小型ポンプ  
ホース

設備  
火災報知器  
スプリンクラー  
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目10番9号 TEL018 (863) 1551(代)  
猿田興業ビル7F FAX018 (824) 3651

森田ポンプ  
桜ホース・ソフト吸管  
各種消火器

ラビットポンプ  
消防被服一式  
消防機器一式

株式会社 協立  
株式会社 能代消防センター

〒016-0846 能代市栄町12の3  
TEL (0185) (52) 6361  
(52) 6494